金谷川小だより

かなやがわ小ブランドの創造

令和３年　２月１９日
福島市立金谷川小学校
児童数　　８１名
校　長　宍戸 与一

２月に入ってから，朝夕の寒さも数日ごとに寒暖を繰り返すようになりました。学校の桜もつぼみが少しずつ膨らみだし，季節は春へと変わり始めています。

先週の大きな地震，被害状況はいかがでしたか。学校では天井のパネルが落ちました。特に３階は被害があり，５・６年生は教室を移動して学習しています。２２日からは，十分注意を払いながら元の教室で学習する予定です。ご心配おかけしました。

２月１５日（月）以降の教育活動について

県の緊急対策期間終了を受け，２月１５日以降は，学校の行動基準における対応が“レベル１”に移行されました。これによって，感染リスクの高い活動として停止していた合唱などの活動が実施できるようになりました。今週は，子どもたちの元気な声とともに歌声や，鍵盤ハーモニカなどの演奏も聞こえてくるようになり，一安心しているところです。感染対策を取ったうえで，徐々に活動の範囲を広げていきたいと思います。今後も，子どもたちが自分で感染の危険を予知したり，回避したりする実践的態度を養い，残りの期間学習や生活を充実させ，進学・進級につなげていきたいと思います。

次のステージに向けて

１年の総まとめのこの時期に子どもたちに頑張ってほしいことの１つは，次のステージに進むための準備を進めること。６年生は３月の卒業式，４月中学生になったときどんな自分でいたいか，１～５年生は３月の修了式，４月進級したときどんな自分になっていたいか，「なりたい自分」の目標（イメージ）をもち，その実現に向けしっかり取り組むことです。進級・進学した自分の姿をイメージして，それに向けて今やるべきことにしっかり取り組んでほしいと思います。

もう一つは，友達や先生との出会いや思い出，そして絆を深めてほしいことです。同じ学校で学び生活した友達や仲間，先生との出会いや思い出，そして絆は一生の財産でもあります。子どもたちが将来，母校を思うとき，思い出すのは友達や先生であり，それらの人との関わりを通した出来事やエピソードです。子どもたちには，思い出したくなるような思い出を友達，先生とたくさん作ってほしいと願っています。そのベースとなるのは，出会いであり，過ごした時間であり，人間関係です。喧嘩したり叱られたりすることもあるけれど，一緒にしゃべったり，勉強したり，遊んだり，悩んだり，何かをやり遂げたりしながら，互いの思いを通わせて絆を強くしてほしいと思います。その経験は，必ずその後の人生で生きて働く力となるはずです。子どもたちの豊かな心の成長を願っています。

本校の子どもたちが次のステージで自分の力を発揮しながら，未来を切り拓く力を育んでいけるよう，教職員一丸となって指導に当たってまいります。